

JACC 比較文化会報

本部事務局：〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀1丁目3番5号
 西南女学院大学 観光文化学科 林裕二研究室内
 会長室：〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀1丁目3番5号
 西南女学院大学 観光文化学科 八尋春海研究室内
 学会HP：http://www.hikakubunka.jp/

《巻頭言：会長再任のご挨拶》

日本比較文化学会会長 八尋 春海

先日の本学会の総会で会長に再任されました八尋春海です。今回は会長3期目となり、規定上、最後の期となります。思い返しますと、2期目の2年間は新型コロナウイルスが拡大していた時期と重なり、全国大会のみならず各支部大会も大きな影響を受けました。それでも、多くの会員のご尽力により、中止となったのは限定的で実施延期や開催形態の変更で乗り切ることができました。プラスの面から見ますと、学会内でオンラインを活用する機会が生まれ、それまで対面が前提となっていた研究発表や会議の方法に新たな選択肢が増えたということがあります。これは、通常期であっても活用できるものであり、学会活動の活性化に繋がることだと期待しています。

しかしながら、この2年間において明らかにマイナスのこともありました。提携学会との交流の機会が激減したことです。「比較文化」を標榜している本学会としては極めて残念なことです。ただ幸いにも現在、少しずつ渡航制限が緩和されてきており、今後は少しでも多くの交流の機会を確保し、提携学会との理想的な関係を維持できればと強く願っております。

ところで来年度の全国大会は、学会創設以来初の北海道での開催となります。千歳空港と羽田空港間の搭乗者数は、世界1です(世界第2位は、羽田空港と福岡空港間)。航空会社(旅行会社)間の競争が激しいということであり、格安の旅行商品も充実しています。この機会にぜひ、北海道での全国大会にご参加いただければと思います。

最後にこの場をお借りし、新しい理事と委員会の委員の紹介をしたいと思います。

【理事】

北海道 奥村訓代(支部長)、山田利一
 東北 高橋栄作(支部長)、佐藤和博、佐藤静、伊藤豊
 関東 高橋強(支部長)、近藤俊明、中村友紀、郭潔蓉
 中部 白鳥絢也(支部長)、澤田敬人(副会長)、樋口謙一郎
 関西 山内信幸(副会長・支部長)、北林利治(副会長)、金志佳代子、藤岡克則
 中国四国 轟木靖子(支部長)、山下明昭
 九州 八尋春海(会長・支部長)、佐藤慶治、山崎祐一、高瀬文広
 事務局長：林裕二
 会長指名理事：藤山和久

【編集委員会】委員長：中村友紀、委員：伊藤豊(東北支部)、金塚基(関東支部)、澤田敬人(中部支部)、金志佳代子(関西支部)、山下明昭(中国四国支部)、佐藤慶治(九州支部)、北林利治(会長指名)、中村友紀(会長指名)

【広報委員会】委員長：中村友紀、委員：馮一峰(北海道支部)、古河美喜子(東北支部)、森崎巧(関

東支部)、大崎洋(中部支部)、三浦秀松(関西支部)、梶原雄(中国四国支部)、樋口真己(九州支部)理事、委員のみなさま、2年間よろしくお願ひ申し上げます。

この会報の編集作業中に、悲しい知らせが届きました。台湾日本語文学会・台湾日本語教育学会・淡江大学村上春樹研究センターで重責を担われ、それぞれの団体と本学会との交流協定締結に多大な尽力をされた落合由治先生9月12日に急逝されました。落合由治先生のこれまでのご貢献に深く感謝いたしますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

《2023年度日本比較文化学会第45回全国大会(国際学術大会)開催のお知らせ》

北海道支部長・大会実行委員長 奥村 訓代(北洋大学)

来る2023年5月20日(土)を中心に、日本比較文化学会第45回大会が北海道で開催されます。是非この機会に、北海道観光旅行やグルメ旅行を兼ねているような意味の比較文化を楽しんで頂ければと考えております。どうぞ皆さん、本場北海道グルメ穴場巡りにも奮ってご参加下さい。

*発表申込締切:2023年2月15日(採否は2月末に返信) t_fukumoto [アットマーク] hokuyo.ac.jp まで

*シンポジウム発表者:11月末依頼、3月末レジメ締切

*全体構成:

○比較研究1 2023年5月19日(金)(苫小牧観光施設見学)

12:00 苫小牧駅南口集合→「ぶらっと港市場」にて昼食と買い物(各自)→「ウトナイ湖見学」
→「ウポポイ」にてアイヌ文化体験(2000円)→「夕食会」苫小牧駅前(3000円)

○比較研究2 2023年5月20日(土)(シンポジウム・口頭発表等)

(1) 午前の部:9:00~12:00 苫小牧市錦西町3-2-1 北洋大学 本館・図書館

・理事会:(理事のみ)9:00~9:50(本部2F教授会室)・総会:10:00より11:00(大教室)

・シンポジウム:11:10~12:10(大教室) ~昼休み~

(2) 午後の部:13:30~17:00(口頭発表 各部屋にて)

➤下記(1)および(2)の行事への参加には、参加費の事前振り込み(4月30日締切)が必要となります。

(振り込みを持って申し込みとします!)振り込み先等の詳細は、ホームページで全国大会(国際大会)の情報が更新される際にお知らせしますので、後日ホームページでご確認ください。

(1)5月19日の「比較研究1」5000円(係るバス代等は支部負担)

(2)5月20日の「懇親会費」3000円

《大会報告:2022年度日本比較文化学会第44回全国大会(国際学術大会)》

大会実行委員長 伊藤 豊(山形大学)

本年度の全国大会・国際学術大会は、去る5月21日(土)、山形大学小白川キャンパスにて、対面・オンライン併用のハイブリッド形式で開催されました。コロナ禍が未終熄にも拘らず、国内支部や海外提携学会からも多くの皆様にご参加いただいたこと、まずは深く御礼申し上げます。

当日午前には理事会・総会・開会式の後、シンポジウム「比較文化と共創社会」が開催されました。司会は郭潔蓉先生(東京未来大学)がお務めくださり、国内支部および海外提携学会の代表6名のパネリストによる発表がおこなわれました。午後の個人研究発表は合計31件、5会場でのハイブリッド同時進行は当方としてまったく未経験の領域であり内心ドキドキしながらの運営でしたが、何とか大過なく済ませることができました。個人研究発表の終了後、夕刻には尤銘煌先生(山形大学)をお招きして「山形大学留学生OBから見た日本の企業文化及び会社へのアプローチ方法」と題するご講演をいただきました。

今回は会場校の対コロナ規制が厳しく、また大会実行委員会の側でも用心に用心を重ねて、残念ながら懇親会は無して散会としました。来年、北海道の全国大会では皆様と懇親会で会えることを祈念しつつ、今大会の準備と実施に大活躍した山大学生スタッフの方々に、心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

《新役員》副会長就任の挨拶

副会長（会務担当）山内 信幸

このたび、2022年5月に開催されました第44回日本比較文化学会全国大会臨時理事会におきまして、八尋春海会長より副会長（会務担当）の指名を受けました山内信幸です。再登板となりますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

八尋会長は、学会としての国際通用性を重視され、じゅうぶんなご学識とご経験でもって、3期目においても、本学会を牽引していただけるものと大いに期待しております。若い世代の先生方にもご協力いただける態勢作りも整ってきており、本学会のさらなる発展を目指し、微力ながら尽力していく所存です。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

八尋会長のご指導の下、従来の本学会の堅持してきた古き良きところは残しつつも、21世紀に見合う、魅力ある学会へとさらに成長していくことを願っております。

副会長（国際交流担当）澤田 敬人

再び2年の任期で本学会の副会長を務めさせていただくことになりました。会長、副会長はじめ役員の皆様、事務局の皆様とともに、学会の運営に力を尽くしてまいります。微力ではございますが、本学会の発展のために取り組む所存です。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本学会には昭和、平成、令和と続く時代の中で培った研究教育活動の蓄積がございます。この間に世界情勢はもとより学協会や大学・研究所を取り巻く状況の変化の中で、比較文化研究も鍛えられてきました。好況であれば企業メセナの活発化の中、文化政策の研究が胸を躍らせました。不況の波が押し寄せると貧困格差が顕在化し、一億総中流の幻想を指摘する研究が説得力を増します。ただ景気に左右されない確かな視野はいつの時代にも必要です。基礎が簡単に変わってしまい揺らいでいるようでは誰もが困ります。これからも確かな基礎として比較文化研究を目指してゆきたく存じます。

この確かな基礎としての比較文化研究を進めることで、海外の学協会からの学問的な信用とそれに伴う評判を高め、交流を実りあるものにすることができると考えます。今回は副会長の就任に際し国際交流を特命事項としていただいております。これまでの本学会の蓄積を踏まえ、とりわけコロナ後世界の信用と評判を獲得するための国際交流となるよう努めたく存じます。

副会長（研究・教育担当）北林 利治

このたび、八尋春海会長より副会長の指名を受けました北林です。私が最初に日本比較文化学会に入会したのは、1986年に青森大学で開催された第8回全国大会のときでした。それ以来、自分の教育と研究の中心に本学会がありました。幅広い視点から研究と教育ができるのもこの学会のおかげだと思っております。これまでの大会のシンポジウムのテーマを見てみると、取り上げられるテーマが常に時代の一步先を進んでいて、シンポジウムでは比較文化研究の最先端に触れることができます。たとえば、2004年の大会ではテーマに「多文化」というワードが入っています。また、2007年では「グローバル」というワードがタイトルに入っています。それぞれ、その少しあとに、世間でもよく話題に出てきたキーワードとなりました。このように会員の先生方が築いてこられたすばらしい学会の教育と研究の伝統を、八尋会長をしっかりと支えながら、発展させていきたいと思っております。

《編集委員会報告》

編集委員長 中村 友紀

学会誌『比較文化研究』に関連するここ1年の主な動向は下記の通りとなります。

1. 2022年度日本比較文化学会奨励賞受賞論文は、江口真規氏（筑波大学）の「アニマル・スタディーズの発展と動向—文学・文化研究とアクティビズムの関わりから—」（2021年144号pp.1-10）となりました。授賞式は、5月20日（土）の全国大会にて行われました。

2. 投稿規程が改訂されました（5月20日改訂）。第3条で、共著投稿の場合、第二著者以降も会員である必要がある点が明記されました。また、第4条では、年間の投稿回数制限の変更がなされ、「単著あるいは筆頭著者となる共著は年2編まで、第2著者以下となる共著はそれを含めて年4編まで」となりました。皆さまには学会ウェブサイトの投稿規程のページでご確認をお願い致します。
3. 東北支部編集責任者が、高橋栄作先生から伊藤豊先生に交代となりました。高橋先生には長い間ありがとうございました。

《総会報告》

事務局長 林 裕二

2022年5月21日（土）山形大学（小白川キャンパス）にて開催した日本比較文化学会総会の議事録を以下に報告します。

*【報告】

1. 会員の動向：全会員数（2022年5月1日現在）555名
2. 編集委員会から：2.1 投稿規程の改定 2.2. 2022年度奨励賞

*【議事】

1. 会則の変更の件（再入会手続き金の改定）：提案：第4条4.再入会費用についての項の改定
現行：再入会費用は、一般会員・学生会員共に5,000円とする。
改正後：再入会費用は、一般会員・学生会員共に10,000円とする。（下線部が変更箇所）
改正理由：2年分の会費滞納で除籍になるため、その滞納分を再入会の際に徴収する。そうすることにより滞納のない会員との不公平感が生じない。
2. 第45回全国大会・2023年度国際学術大会開催会場及びシンポジウムの件：日時：2023年5月20日（土）、会場：北洋大学（苫小牧市錦西町3丁目2番1号）、担当支部：北海道支部、運営委員長：奥村訓代、シンポジウムのテーマ：「比較文化の原点」。承認。今後の全国大会主催支部のローテーションは「北海道（2023年）→中部→中国・四国→関西→九州」となる。
3. 2021年度会計決算の件：承認。
4. 2022年度会計予算の件：承認。
5. 会長選出の件：理事会で会長候補者として八尋春海現会長が選出されたことが報告され、承認。
6. 新理事・新役員選出の件：新理事会での承認を経て、一部修正の上、承認。
7. 奨励賞授与式：江口真規氏（筑波大学）に授与。

*2021年度決算・2022年度予算報告は巻末（p.8）に掲載しております。

《支部報告》

北海道支部

*【報告】

2022年7月2日（土曜日）北洋大学創立記念日にて、大学の紹介の催し物や防災関係のブース・催し物と共に日本比較文化学会紹介のブースを設け日本比較文化学会の広報活動を行いました。その時の様子が苫小牧民報（8月3日付）に掲載されました。

*【お知らせ】日本比較文化学会北海道支部大会及び研究発表会

日時：2023年3月上旬予定

場所：北洋大学（北海道苫小牧市） 詳しいことが決まりましたら、お知らせいたします。

*【お知らせ】2023年度日本比較文化学会第45回全国大会・国際学術大会

日時：2023年5月20日（土）

場所：北洋大学（北海道苫小牧市） 詳しいことが決まりましたら、お知らせいたします。

*【お願い】

日本比較文化学会の会員の皆様にお願ひがあります。会員の皆様のお知り合いの中で、北海道関係の方、北海道在住の方がいらっしゃれば、北海道支部への入会をご勧誘・ご推薦、または、ご紹介いただけるようお願い申し上げます。

支部長 奥村 訓代

東北支部

*【報告】2022年度日本比較文化学会東北支部臨時総会・東北支部例会

日時：2022年9月10日（土）

場所：ハーネル仙台 5階 「かえで」

臨時総会にて東北支部会則について検討し承認された。支部長より、次回総会と例会の日程について報告された。続いておこなわれた支部例会では4件の発表がおこなわれ、活発に議論がおこなわれた。発表者、タイトルは以下の通り。

プログラム

- (1) 野口 周一（川口短期大学）「日本人の台湾経験」
- (2) 横地 徳広（弘前大学）「名もなき民の脱底と沈黙する神一苦海の時間と歴史をめぐって」
- (3) 石 俊彦（東北大学大学院）「中国の韓流ドラマ受容における中国政府の存在—1997-2016年『中韓共同声明』および『中韓共同コミュニケ』を中心に—」
- (4) 斎藤 隆枝（国際医療福祉大学）・河内 健志（高崎経済大学）・高橋 栄作（高崎経済大学）「学校外ICT機器使用時間が中学生の英語学習意欲及び英語力に与える影響」

*【お知らせ】2022年度の総会、例会を2023年3月に開催予定です。

支部長 高橋 栄作

関東支部

*【報告】日本比較文化学会関東支部第56回支部例会

日時：2022年9月17日（土）13：00～17：00

場所：オンライン開催

プログラム

- (1) 高橋 強（東海大学）「CLILを用いた授業実践：アンケート結果から見えてきたもの」
- (2) 金塚 基（東京未来大学）「高等学校応援団の活動役割の可能性に関する一考察」
- (3) 李 雪珍（宇都宮大学大学院）「中国の大学における日本語母語話者教師と非母語話者教師による協働の実態—日本語非母語話者教師に対する調査から—」
- (4) 蔡 麗文（宇都宮大学大学院）「江戸俳諧における牡丹句—白居易の牡丹詩の受容を中心に—」
- (5) 鮑 ケツ嬰（お茶の水女子大学大学院）「中国における大学生のキャリア・アダプタビリティの規定要因に関する研究—学生エンゲージメントの視点から—」
- (6) 田中 則広（淑徳大学）「NHKのラジオ国際放送が伝えた『拉致問題』」

支部長 高橋 強

中部支部

*【報告】日本比較文化学会第12回中部支部大会

日時：2022年10月16日（日）

場所：浜松学院大学（※Zoom開催）

1. 研究発表

- (1) 白鳥 絢也（常葉大学）「教育課程の変遷を見つめる その2—『教育再生実行会議』から『教育未来創造会議』へ—」
- (2) アンディニ・プトリ・プラタミ・ルスタンディ（金沢大学大学院）「不満談話のストラテジー：ロコ

ミに基づく分析ー日本語とインドネシア語の比較ー」

(3) 野田 晃生 (河北外国語学院大学) 「日本におけるワシーリー・エロシェンコ」

(4) 津村 公博 (浜松学院大学)・田島 喜代美 (浜松学院大学) 「浜松市の中心市街地の空洞化への学生 NPO 法人の取り組みーアクト通りふれあいディー」

(5) 樋口 謙一郎 (椋山女学園大学) 「アーカイバル・ヘゲモニー再考」

2. 座談会

* **【その他】**

2022年9月18日(日)：中部支部役員会を行った(メール会議)。

支部長 白鳥 絢也

関西支部

* **【報告】** 日本比較文化学会関西支部3月例会

日時：2022年3月19日(土) 14:30~17:00

場所：同志社大学今出川キャンパス 良心館207教室

プログラム

1. 研究発表 (14:30~16:00)

(1) 孫 睿卿 (同志社大学大学院) 「中国人日本語学習者の『AのB』形式の使用に関する一考察ー習得難易度ハイアラキーの提案ー」

(2) 吉田 好美 (早稲田大学) 「断りの終結部に関する一考察ー対面と非対面(LINE)の比較ー」

(3) 栢山 剛 (鳥羽商船高等専門学校) 「太平洋戦争勃発における山本五十六の軍事戦略」

2. 講演 (16:10~17:00)

石岡 学先生 (京都大学大学院人間・環境学研究科准教授) 「『青春』イメージの現代史」

* **【お知らせ】** 日本比較文化学会関西支部10月例会

日時：2022年10月22日(土)

場所：同志社大学今出川キャンパス

支部長 山内 信幸

中国・四国支部

* **【報告】** 日本比較文化学会中国・四国支部研究会

日時：2022年9月3日(土)

場所：オンライン開催

プログラム

1. 講演

佐々木 香織先生 (新潟国際情報大学非常勤講師・りてらこや新潟代表)

「権威主義と言葉の破壊ー今日本で起きていることを考えるー」

2. 研究発表

(1) 龐 朝霞 (奈良女子大学大学院) 「Social Capital と中国の社区減災」

(2) 陳 丁シヨウ (九州大学大学院) 「芥川龍之介『MENSURA ZOILI』の自然主義諷刺ーアリストファネス『蛙』との関連をめぐってー」

(3) 邵 楠 (山口大学大学院) 「『大江千里集』の成立意図ー序文を端緒としてー」

(4) 鮑 小磊 (広島大学大学院) 「中国語を母語とする上級日本語学習者の敬語観に関する一考察ー対人関係を中心にー」

(5) 曾 琴 (広島大学大学院) 「行事文化の比較を軸にした CLIL 指導による学びー学習者の声をもとにー」

(6) 呉 秦芳 (台湾 真理大学) 「初対面会話における自己開示要求とその応答の連鎖組織—『日本語話し言葉コーパス』の『自由対話』を対象に—」

支部長 轟木 靖子

九州支部

* 【お知らせ】 第35回九州支部大会と発表者募集

日時：2023年2月18日(土) 13:00より

会場：福岡女学院大学(福岡市南区)

- ・発表申込み：2022年12月27日までに、九州支部事務局 yahiro [アットマーク] seinan-jo.ac.jp に次の発表要旨を送付してください。
- ・発表要旨：WORD を40字×36行に設定して、中央1行目にタイトル、1行あけて氏名、その後()内に所属(所属支部と勤務校名 or 大学院名)を書く。1行あけて、A4で1枚に収まるようにレジュメを作成してください。
- ・発表資格：日本比較文化学会の会員で本部及び支部の会費滞納がないこと。九州支部以外の会員も発表申込は可能ですが、九州支部の会員が優先となりますので、それ以外の支部会員のみなさまには発表者多数の場合にはご辞退いただくことがあります。
- ・懇親会：会費4,000円(会場周辺にて実施)

* 【お知らせ】 2022年度関西・中国四国・九州3支部合同研究会と発表者募集

日時：2023年3月18日(土) 13:00より

会場：広島経済大学立町キャンパス(広島市中区立町)

- ・発表申込み：2023年1月末日までに、九州支部事務局 yahiro [アットマーク] seinan-jo.ac.jp に次の発表要旨を送付してください。
- ・発表要旨：WORD を40字×36行に設定して、中央1行目にタイトル、1行あけて氏名、その後()内に所属(所属支部と勤務校名 or 大学院名)を書く。1行あけて、A4で1枚に収まるようにレジュメを作成してください。
- ・発表資格：日本比較文化学会の会員で本部及び支部の会費滞納がないこと。3支部(関西、中国四国、九州)以外の会員も発表申込は可能ですが、3支部の会員が優先となりますので、それ以外の支部会員のみなさまには発表者多数の場合にはご辞退いただくことがあります。
- ・懇親会：会費4,000円(会場周辺にて実施)

支部長 八尋 春海

《事務局からのお知らせ》

事務局長 林 裕二

現事務局体制で三期目に入りました。学会運営上の様々な事務的な対応や処理などを毎日のようにしております。定型業務が多くを占めますが、新規の対応が必要な課題もあります。対応には至らぬところもあろうかと存じますが、誠心誠意努力してまいりますので、学会員の皆さまのご協力とご支援のほど、心よりお願い申し上げます。

○**会員情報更新のお願い**：住所不明により学会誌や会報をお届けできない会員の方がいらっしやいます。就職、転勤等によるお引越の際には、忘れずに会員調査書(=入会申込書)に新情報をご記入の上、会員調査書送付先アドレスまでお送りください。なお会員調査書は学会ウェブサイトよりダウンロードしていただけます。

<日本比較文化学会 ウェブサイト 入会・会員情報変更> http://hikakubunka.jp/?page_id=97

<入会申込書・会員調査書送付先> あゆみコーポレーション(業務委託先)

hikakubunka [アットマーク] a-youme.jp

○会費納入のお願い： 会費の納入にいつもご協力いただき感謝いたします。2年以上未納（学生会員については1年以上）の場合には会員資格を失うこととなりますのでご注意ください。支部会費については、本部事務局ではなく、担当支部への問い合わせをお願いします。支部の運営については、各支部で定めております。

<会費振込情報> 郵便振替口座番号：02570-6-8921 加入者名:日本比較文化学会
振り込みの際には、氏名、所属支部と何年度分の会費であることを明記してください。

《2021年度決算・2022年度予算報告》

2021年度日本比較文化学会 決算			2022年度日本比較文化学会 予算		
科 目	2021年度予算	2021年度決算	科 目	2022年度予算	
I 収入の部			I 収入の部		
1、資産運用収入			1、資産運用収入		
利子	160	17	利子	160	
2、会費収入			2、会費収入		
一般会員	2,833,000	2,744,291	一般会員	2,745,000	
賛助会員	10,000	20,000	賛助会員	20,000	
3、事業収入			3、事業収入		
『比較文化研究』配布収入	6,000	0	『比較文化研究』配布収入	6,000	
4、寄付収入			4、寄付収入		
寄付収入	0	0	寄付収入	0	
5、その他	0	0	5、その他	0	
当期収入合計(A)	2,849,160	2,764,308	当期収入合計(A)	2,771,160	
II 支出の部			II 支出の部		
1、大会開催関連費			1、大会開催関連費		
第43回大会費	350,000	350,000	第44回大会費	350,000	
2、支部運営補助費			2、支部運営補助費		
支部運営補助費	60,000	70,000	支部運営補助費	70,000	
3、『研究』発行費			3、『研究』発行費		
編集補助費	520,000	650,000	編集補助費	520,000	
発送費	800,000	363,741	発送費	800,000	
4、会員活動補助費			4、会員活動補助費		
若手研究者海外渡航費補助	150,000	0	若手研究者海外渡航費補助	150,000	
5、提携学会交流費	100,000	0	5、提携学会交流費	100,000	
6、管理費			6、管理費		
事務局費	35,000	0	事務局費	35,000	
交通費	100,000	0	交通費	100,000	
通信費	10,000	1,110	通信費	10,000	
業務委託費	380,000	506,665	業務委託費	380,000	
会議費	150,000	1,490	会議費	150,000	
印刷費	50,000	0	印刷費	50,000	
HP管理維持費	50,000	38,324	HP管理維持費	50,000	
『会報』編集補助	27,000	25,200	『会報』編集補助	27,000	
手数料(振込み等)	38,000	55,431	手数料(振込み等)	38,000	
7、予備費	100,000	40,000	7、予備費	100,000	
当期支出合計(B)	2,920,000	2,101,961	当期支出合計(B)	2,930,000	
当期収支差額(A)-(B)	-70,840	662,347	当期収支差額(A)-(B)	-158,840	
前期繰越額(C)	4,779,468	5,497,476	前期繰越額(C)	5,498,697	
次期繰越額(A)-(B)+(C)	4,708,628	6,159,823	次期繰越額(A)-(B)+(C)	5,339,857	